

安全保護具着用の徹底と見直し

新年度が始まりました。気持ち新たに作業を行うべく、安全作業の基本となる、服装及び保護具の装着を正しく見直しましょう。

- ① 服装は、袖じまり、裾じまりのよい防水性と透湿性を備えた素材の物を着用する。
- ② 履物は、足に合った滑りにくい物を着用する。
- ③ 保護具（保護帽、保護・防振手袋、防護ズボン、耳栓、呼子、保護網、保護眼鏡等、防音保護具）は正しく着用する。

<危険対策>

- チェーンソー・刈刃・かまなどの刃物の危険
- 枝・木片・小石・ささなどの飛散物・落下物の危険
- 突出した木・枝植生物などの接触の危険
- 移動・通行・作業場所の地質・地形・環境などの危険

<有害対策>

振動・騒音による健康障害防止

★初心に戻り基本動作含め、安全保護具着用を見直して仕事に取り組みましょう！

依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

ほめる文化がヒューマンエラーを減らす

安全確保に向けて重要視されている、「ヒューマンエラー」“人が関わる失敗”と言えるでしょう。例えば、作業現場でも「ど忘れ」「手元が狂う」「思い違いをする」「タイミングを間違える」など、いわゆる「ミス」「エラー」「失敗」と言われるもので、誰にでもあるものではないでしょうか。そこで、どのようにしたら人は動くのか。それは“ほめる”ということ。口を開けば駄目出しばかり、そういう状況になった時、その内容が納得のいかないものであればあるほど、指摘された作業者は落ち込んで萎縮するか、反発したりするばかりです。作業者に対して駄目出しも必要ですが、そればかりでは管理者の期待に応えようとはしません。そのためには、作業者の良いところを見て、心を込めて相手の心に響くようにほめてほしいものです。ルールを守り、安全管理を徹底させるには、まず相手の心に助言を受け入れる「心の余裕」が必要ですが、その「心の余裕」は、駄目出しだけでは出来上がるものではないでしょう。“ほめる” = “認める”きちんとやっていることを認めて評価することで、人は嬉しくなり、モチベーションが上がり、ヒューマンエラー防止に繋がります。結果として、事故や災害も減る。“ほめる文化”とは、そういったものではないでしょうか。

今月の一言
真剣だと知恵が出る
中途半端だと言いつけが出る

GWの豆知識

5月にあるGWの名前の由来で、元々は「黄金週間」と呼ばれていたことをご存知ですか？1951年、

当時の娯楽は映画だったらしく、獅子文六原作の「自由学校」が、GWに当たる時期に、正月やお盆よりもヒットしたことが、黄金週間の由来と考えられているそうです。しかし、語感的に少し古臭いのが難点で、英語表記に変えたとのこと。大型連休という言い方もありますが、その理由としては、

○連休が一週間と決まってはならないので、“ウィーク”ではない。

○GWは一民間会社で作った造語である。

○GWといっても休めない人も沢山いる。

などがあり、NHKや一部マスコミではGWという言葉避けているそうです。

5月5日のこどもの日。子供の幸福を図る日とされていますが、母に感謝する日という意味もあるようです。意味を知る事って大切ですね。